

Wesley Hall News



大学チャペルウィーク(相模原)
(2008年5月)

青山学院スクール・モットー

地の塩、世の光

The Salt of the Earth, The Light of the World

(新約聖書 マタイによる福音書 第5章13～16節より)

No.97
2008.10.1.

説教「初めに、神は天地を創造された。」	清水 正	2
青山学院の礎を築いた津田仙	嶋田 順好	4
開かれた宗教センターを目指して		6
●宗教行事報告		
子どもフェスタ	鈴木 法子	8
なかよしキャンプ	小林 寛	8
62期オリエンテーションキャンプ	金子 琴江	9
保護者聖書の集い	坂上 三男	9
●「地の塩、世の光」輝くいのちを生きよう	神田 英輔	10
●キリスト教図書紹介 大型しかけ絵本 天地創造	久 洋子	11
●青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料 その24	氣賀 健生	12
●私の教会 日本キリスト教会 鶴見教会	芹田 敏夫	14
●コラム 宗教改革		15
●宗教センターだより		15

説 教

「初めに、神は天地を創造された。」

創世記 第1章1節

清水 正

高等部聖書科教諭



これは聖書の最初の書物、創世記第1章1節の言葉です。聖書は「初めに、神は天地を創造された。」と断言しています。このメッセージは一つの根本的な立場を表明しているのです。一つの原理的な存在理解を示しているのです。「初め」とはギリシア語で「原理」を意味します。原理はすべてのものの初めにあるもの、すべてのものの根本・根底にあつて、それを支えているものです。ですから「初めに」は時間的に「先に」ということにとどまらず、存在の根底・根拠として、存在の「原理として」という意味です。

「天地」とは存在するものすべてのことです。「地」は人間の到達できる世界、把握できる存在、処理可能な領域であり、「天」は人間を超越した世界を意味します。天地とは人間を含めて存在の全体、およそ存在するものすべてのことです。ニカイア信条(紀元325年の教会会議で採択された)では、天地を「すべて見えるものと見えざるもの」と言い換えています。このように天地、つまり物質も精神も、存在を成り立たせる秩序・法則も、存在の根本規定と言ってよい時間・空間も、すべてが創造されたと言うのです。しかしこのことを実証的に確かめることはできません。実証とは既に存在しているものを前提にして、それを用いてなされるからです。ですから見えないものを実証的に確かめることはできないのです。従ってこれは実証科学の主張ではなく、信仰の告白です。信仰は知識を超えるもの、知識に先立つもの、人間の能力を超越した領域を受け入れる態度を意味します。知識の根底に信仰

がある、これが聖書の立場です。

古代人は天体を神聖視し神として礼拝しました。しかし聖書は、それらは神ではなく、神に創造されたものにすぎないと言います。神はすべてのものに先立ち、すべてのものを創造し保持し完成させる唯一の創造者です。聖書に「わたしは造ったゆえ、必ず負い、持ち運び、かつ救う。」(イザヤ書46章4節 口語訳)と記されています。唯一の創造者こそが真実の神です。万物は神によって創造された被造物です。なぜこのような存在理解・世界理解、このような創造者への信仰が成立したのでしょうか。それは神の民イスラエルの苦難に満ちた信仰の歴史の中からうまれたのです。かれらは唯一の神を万物の創造者、保持者、救済者として信じたのです。聖書の民は苦難の歴史の中で真実の救いを求め続け、それを与え得るのは万物の創造者である全能の神以外にはないことを悟ったからです。真実の救済者は全能の創造者でなければならない、救済神は万物を統べ治める全能の創造神でなければならないのです。

初めに神は創造されたのですから、「創造」はすべての始まりです。創造がなければ何も始まらず、何も存在しないのです。従って創造は「無からの創造」です。何か素材を必要とする「製作」とは根本的に異なるのです。存在を造りだすのが「創造」です。これは明らかに人間能力を無限に超越したことです。ギリシアの人達は「無からは何も生じない」と考えました。「無からは無し

か生じない」のです。ところが聖書は「無からの創造」を主張するのです。それは人間の行為ではなく、全能の神の行為です。創造神への信仰なしには主張できないことです。科学的な観察実証の結果ではなく、実証とは異なる信頼から生まれる確信です。信頼(信仰)は、自分の中に根拠・理由を求めるのではなく、相手の中に根拠・理由を見いだす姿勢です。実証的観察ではなく、神への信頼が「無からの創造」を承認させるのです。それは証明ではなく「証言」です。イスラエルの民は救済体験から、救いの神を創造神として証言したのです。

「無からの創造を確認させるのは自己の救済体験です。救済体験は破滅からの救出体験です。自分の徹底的無力(自己破滅)からの脱出(救済)は「無からの創造」と言うほかないのです。救済体験は自分の無力さの自覚であり、自分が創造者ではなく被造者であることの承認です。さらに存在するすべてが被造物であることの確認です。自分の被造性の承認なしに創造者なる神の承認はありません。創造者と被造者(人間)は根源的な相関関係にあるからです。ここから「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。」と歌われ、「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。」と主張されるのです。

聖書は神の創造について、「神は言われた。『光あれ。』こうして、光があった。神は光を見て、良しとされた。」と記します。神の創造は、光の創造、闇の追放です。絶望を駆逐して希望を与えること、死を滅ぼして命を授けること、要するに破滅からの救済です。創造は救済です。創造の神は救済の神です。「死者に命を与え、存在していないものを呼び出して存在させる神」です。そして創造は神が言葉を発することで起きます。創造の原動力は神の言葉です。神の意志、神の御心です。それは救いの意志、生かそうとする御心です。他者を生かそうとする意志が「愛」ですから、創造

の原動力は神の絶対の愛にほかなりません。「神は愛だからです。」このように神の本質は愛であり、万物を創造し保持し完成させる絶対肯定、無条件の存在肯定にほかなりません。従って創造は神の愛の表現であり実現です。創造は愛であり、愛は存在させる力です。

ところで存在の力である愛は言葉として発現します。神の愛の言葉、呼びかけによって万物は存在するのです。そして人間は言葉をもつ唯一の被造物です。神の言葉を聞き答える能力を与えられているのです。この応答能力すなわち責任能力(responsibility)を「理性」と言います。あらゆる存在から創造者の意志を聞き取り、その意味を理解する能力が理性です。従って理性を授けられた人間の使命は、被造物を通して語られている創造者である神の言葉を聞き取ること、存在の本当の意味を理解することです。世界の存在全体が神の御心を表現しているからです。

世界は神の言葉を語る書物です。人間の記した書物ではなく、神の意志を記した書物です。私たちは存在の全体、つまり自然(自然界)と歴史(人間界)から神の言葉を聞き取るのです。それが学問の究極の使命です。というのは学問の目的は真理の探究であり、それぞれの研究対象・領域で真理は異なりますが、究極の真理を求めようとするからです。聖書の示す創造信仰に立てば、存在全体は究極の真理つまり神の意志を表していますから、それを読み取ることが学問の使命になるのです。天体の秩序ある運行と法則も、生命の精緻な構造と調和も、創造者の英知を表しているのです。また人間の歴史も創造者の人間に対する意志を表しています。歴史は人間の理想と現実、実存と本質の乖離、矛盾葛藤を物語ります。歴史は人間の罪悪と神の正義を表し、世界のあるべき状態の実現成就・救済を希求させます。現在、自然界と人間界の統一的理解が学問に求められています。存在する世界の根源的かつ究極的な統一、世界の真実の意味、これを私たちは求めなければなりません。それが神の創造の意志・神の愛の中にあるのです。

青山学院の礎を築いた津田仙

嶋田 順好

学院宗教部長



もう一人の校祖

昨年はロバート・サムエル・マクレイ宣教師の没後百年の年でしたが、今年は津田仙先生(以下敬称略)の没後百年にあたります。津田仙と言われてもすぐにピンと来る人はそれほど多くはないかもしれません。一般的には津田塾大学を創設した津田梅子の父親ということで知られているにすぎないからです。しかし津田は、幕末から明治に至る日本の近代化の歩みのなかで、政治家や役人としてではなく、一民間人として極めて重要な役割を果たし続けました。彼の生涯の功績を一言で表現すると、だいたい次のようになります。

1837(天保8)年、佐倉に生まれ、洋学を学び、日本の近代農業を拓くと共に、草創期のキリスト教界の指導者として活躍。キリスト教教育、障害者教育、断酒運動でも多大な貢献をなす。朝鮮人留学生をキリスト教に導き、朝鮮におけるプロテスタント伝道と農業の発展の道を備え、足尾鉬毒事件の解決にも奔走した農学者、教育者、起業家にしてフィランソロフィスト。

とりわけ青山学院との関係で言えば、その源流となった女子小学校、耕教学舎の創立に日本人として最も重要な貢献を果たした人物です。もし津田がいなかったなら、青山学院も今日のような形では存在できなかったことでしょう。青山学院では校祖としてスクーンメーカー、ソーパー、マクレイの三宣教師の名が挙げられ、次いで日本人として初の院長となった本多庸一先生の名が挙げられるのが常ですが、そこに津田の名前が加えら

れて然るべきことだと思うのです。

西洋文明に魅せられて

津田仙は佐倉藩の家臣児島善右衛門良親・きよ夫妻の三男として、1837(天保8)年7月6日に佐倉城内最上町で生まれました。あらゆる武芸に優れ、導入されて間もない西洋式の銃や大砲の操作方法にも関心を示す、好奇心あふれる優秀な若者でした。今風に言えば、体育会系にして理系人間だったようです。

1853(嘉永6)年6月(新暦7月)、ペリーが黒船で来航したおり、16歳の津田は佐倉藩砲術隊の一員として江戸湾警備にあたり、自分の目で、四隻の黒船の威容を目の当たりにしています。彼にとっては、まさに衝撃的な西洋文明との出会いの場となりました。黒船来港に際し、多くの日本人は、反発や敵意を煽られましたが、津田の場合には、むしろ西洋文明に対する畏怖とも、畏敬とも言えるような思いを抱いたようです。この最初の出会いの衝撃は、生涯変わることのない西洋文明への憧れの思いとなって彼の心のなかで通奏低音のように響き続けることになりました。

まずもって仙は「砲術を修めん」と決心し、洋学を学ぶ志に火をつけられたのです。そしてもちろん、西洋文明の魅力にとらわれた仙にとって、自ずとその「偉大」な文明を生み出した背景にある文化、思想、宗教への関心も高められていくことになったのでした。

風雲急を告げる新時代の胎動を肌身に感じ、洋学全盛の時代を予見し、英語の学びに心血を

注いだ津田には、時代のニーズを的確に捉える預言者的な賜物が生来備わっていたと言えるでしょう。満足に英語を読み、書き、話せる人物がほとんどいないなかで、彼は涙ぐましいまでの努力を英語習得のために注ぎ、24歳で外国方（幕府の外務省）の通訳として採用されています。

1867（慶應3）年には幕府の遣米使節の通訳として、福沢諭吉らとともに半年間ほど米国に滞りました。津田は、人々の間に身分的な尊卑がなく、自由で活気にあふれた交流が持たれ、女性がいっぱい教育を受けて社会のなかで尊ばれていることに深い感銘を覚えます。だからこそ、1871（明治4）年、我が国最初の女子留学計画に、満6歳の次女梅子を応募させたのです。この一事からも仙の大胆、且つ一途な性格をうかがうことができます。

信仰に導かれるまで

梅子の留学は青山学院の歴史にとっても大きな意味があります。彼女は駐米弁務公使森有礼の秘書をしていたチャールズ・ランマン夫妻の家庭に身を寄せましたが、ランマンは、メソジスト監督教会から日本へ派遣されたソーパー宣教師の友人でした。来日前にソーパーはランマンを訪ね、仙宛ての手紙を託されたのです。そのためソーパーは1873年8月に日本に到着して間もなく津田家を訪ね、そのことがきっかけとなって津田夫妻との交わりが生まれ、1875年1月3日に夫妻は揃ってソーパー宣教師より洗礼を受け、東京で最初の日本人メソヂスト監督教会員となったのです。

もちろん津田は一朝一夕にしてキリスト者とされたわけではありません。外国方の通弁として働いていた26歳の頃、友人となった杉田廉卿や新島襄と共に聖書を学び、漢訳や蘭訳のキリスト教書も読んでいたのです。キリシタン禁令の時代のことですから、それはまさに決死の学びであり、それほどにしてまで聖書のメッセージを知りたいとの探求心に突き動かされていたということでしょう。彼のその思いは、短期間ではあっても、現実のキリスト教国アメリカに滞在

したことや、梅子が留学先で自ら望んで洗礼を受けたことにも刺激され、ますます強固なものとなっていきました。ことに1873年に開催されたウィーン万国博に派遣されたことで、彼の求道心は決定的に強められたと言えるでしょう。津田はそこで聖書が「三十五ヶ国の国語に翻訳されて」いることに驚き、聖書を重んじるプロテスタントの国々が、カトリックの国々よりもはるかに国力のあることを身にしみて思い知らされ、「よくバイブルを研究してプロテスタントに入らなければと決心して帰朝した」のです。

愛の心を宿した大きな人

青山学院との関連では、ガウチャーの巨額の献金に基づき、メソジスト派の大学を東京に建設すべく、現在の青山キャンパスの土地を入手する過程で津田が果たした「貢献」も多大なものがありました。当初、彼は自宅近くの麻布に適地を見出し、マクレイ、ソーパー両宣教師の了承のもと、手付金を払い、あとは本契約を待つばかりのところまで尽力奔走したのです。ところが突然、別の方面から、現在の青山キャンパスの土地売却の話が持ち上がり、下見をした関係者一同は、すっかり新物件に魅せられてしまうのです。結果、津田の話は頓挫し、彼の面目は丸つぶれとなりました。激しい議論が闘わされたようですが、津田は面子や誇りを捨て去って、青山学院のために最善の道を受け入れたのです。このことから、津田が、人と人との心を繋ぐ人、キリストの愛の心を宿した大きな人であったことがわかります。

津田は、女子学生にしばしば「ナイチンゲールのようになりなさい」と語りかけました。その一言に含意されていることは、①神を愛し、隣人に仕えること、②神の召命に応えてよく学び、専門の知識をもって使命に生きること、③確立された個人として自立して生きること、ということにほかなりません。それはまた津田仙の70年にわたる神と人との仕えて生きた人生そのものが、雄弁に指し示している人生に対する根本姿勢と言えるでしょう。



バッハコレギウムジャパンコンサート



おーる あおやま あーとてん



清里サマーカレッジ



オール青山ハンドベルコンサート

開かれた宗教セ

皆さんは宗教センターという所をご存知でしょうか？

青山学院がキリスト教の信仰に基づいて建てられた学校として、その建学の精神を高め、学院全体のキリスト教教育の充実とキリスト教の浸透を図るために宗教センターが置かれました。相模原キャンパスではウエスレー・チャペル内に、青山キャンパスでは幼稚園向かいのウエスレー・ホール内にあります。

ここで少しセンターのご紹介をし、皆さんに親しみを感じて頂ければと思います。

宗教センターの主な活動

- 礼拝(学院礼拝・大学礼拝)
- キリスト教行事(講演会・音楽会・絵画展等)
- キリスト教国内・海外研修プログラム
- オルガニスト養成のための講座
- 聖書研究会・フォーカスグループ(テーマ別勉強会)
- 教会紹介・カウンセリング・カルト教団に対する注意と啓蒙
- キリスト教図書・CD等の貸し出し

キリスト教を様々な形や角度から触れて頂けるよう、いろいろなプログラムを用意しています。

2008年度 活動 カレンダー

年間を通して、
様々な活動を行っ
ています。

ぜひ、参加して
ください！

(青) : 青山
(相) : 相模原
(二) : 第二部

4月					5月				6月		7月	
4	11	11	15	26	12	13	19	29	23	25	1	31
入学式	新入生歓迎礼拝	前期聖書研究会	新入生歓迎礼拝	津田仙没後二〇〇年記念礼拝・講演会（青）	ペンテコステ礼拝	ランチタイムコンサート	前期チャペル・ウィーク	バッハ・コレギウム・ジャパンコンサート	ランチタイムコンサート ジョン・ウ・エスレー 回心記念日礼拝（相・青）	ランチタイム・コンサート（相）	おーる あおやま あーと てん	清里サマー・カレッジ
	（相）		（二）		（相・青）	（二）（相）						

ンターを目指して

次に**宗教主任・宣教師**といわれる先生方をご紹介します。

初等部・中等部・高等部・短期大学・大学・大学院にはそれぞれ宗教主任といわれる先生方がいます。また短期大学と大学には宣教師の先生がおられますが、その先生たちはそれぞれの部におけるキリスト教教育の責任を持ち、キリスト教活動のために働いています。ホームページの中で、先生方を詳しく紹介していますので、ご覧になってみて下さい。また、各キャンパスのセンターには専務スタッフがいて、様々な活動をサポートし、学生の皆さんを支援しています。

宗教センターでは部署としてホームページを開いています。これは青山学院の公式ホームページの「キリスト教教育」というタグから入っていただくと、宗教センターのホームページへ繋がります。

そこではいろいろと礼拝、講演会、音楽会、絵画展などの案内や宗教主任・宣教師の先生方の紹介、刊行物の紹介、宗教センターの概要と利用案内なども掲載していますので、是非ご覧になってみて下さい。

皆さんにとって親しみ易い、開かれた宗教センターを目指していますので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。



Art・クリスマス・Aoyama



クリスマス・ツリー点火祭



クリスマス礼拝



オーストラリア・クリスチャン
ファミリー・ホームステイプログラム



フィリピン訪問プログラム

9月		10月		11月				12月		2月		3月						
22	23	17	20	27	11	12	15	26	28	16	18	22	3 予定	中旬	中旬	25		
フォークス・グループ開講 後期聖書研究会		オール青山ハンドベル・コンサート		ランチタイム・コンサート (青)	後期チャペル・ウィーク	ランチタイム・コンサート (相)	創立記念礼拝 (青・二)	創立記念礼拝 (相)	第二部オータム・カレッジ	Art・クリスマス・Aoyama	クリスマス・ツリー点火祭 (相・青)	クリスマス礼拝 (青・二合同)	クリスマス礼拝 (相)	オルガニスト養成講座発表会 (相)	オルガニスト養成講座発表会 (青)	ホームステイ・プログラム オーストラリア・クリスチャンファミリー	青山学院フィリピン訪問プログラム	卒業礼拝・学位授与式

子どもフェスタ

鈴木法子

幼稚園教諭



7月5日(土)、幼稚園では「子どもフェスタ」が行われました。

毎年行われる子どもフェスタは、保護者会の主催する行事です。読んで字の如く、子どものための、つまり幼稚園の園児たちと卒園生たちのためのお祭りで、今年の子どもフェスタ当日の幼稚園には、保護者の方々がご準備くださった、手作り品の買い物コーナー、ゲームのコーナー、エコバッグの製作コーナーなどが用意され、子どもたちは、ふだんの幼稚園とは異なる特別な半日を過ごしました。

しかし、楽しいだけが子どもフェスタの本質ではありません。子どもフェスタを特長づけているのは、フェスタの入場時に子どもも大人も、献金をするという点です。十分な教育や医療を受けることができないでいるフィリピンの子どもたち、家族と一緒に暮らすことのできない赤ちゃんたちを覚えて献金をするのです。また、フェスタ開催日までに全学年の園児がお菓子を作り、そのお菓子を年長組の子どもたちがフェスタの前日と当日に販売をし、その売り上げも献金としてチャイルド・ファンド・ジャパンと愛泉会乳児院(埼玉県・加須市。創立者のゲルトルト・E・キュックリヒ先生は、日本のキリスト教保育の母と呼ばれています)におさげします。このような意味から考えると、「子どもフェスタ」の「子ども」とは、青山学院幼稚園の在園児と卒園児に留まらず、チャイルド・ファンド・ジャパンの活動によって支援を受けているフィリピンの子どもたち、愛泉会乳児院で暮らす乳幼児たちをも含んでいると言えるでしょう。

チャイルド・ファンド・ジャパンと愛泉会乳児院に対しては、子どもフェスタ以外でも、保護者の方々が年間を通して様々な支援活動を行っていらっしやいます。このような社会的活動を積極的に行っている保護者会や園児たちを、私たち教職員は誇りに思っています。

なかよしキャンプ

小林 寛

初等部教諭



「なかよしキャンプはいちにちじゅうやすみじかんみたいです。たったのにはくだけしかとまらないなんてさみしいです。」1年 はた えみ

1学期の終業式が終わると初等部の1年生は山梨県北杜市にある清里高原の清泉寮に2泊3日でキャンプに出かけます。初等部の先生みんなで新入生を迎えましょうという趣旨で、児童6、7人に1人の先生がつきます。グループ担当の先生は、朝の歯磨きから、食事はもちろんお風呂も一緒に入り、夜の眠りにつくまで寄り添って生活します。プログラムはゆっくり流れるので本当に1日中休み時間のようです。

「なかよしキャンプ」は初等部で唯一の宗教キャンプです。暖炉の光を見つめながら進める夜のミーティングで「信仰を盾として取りなさい。」(エフェソ6章15節)の御言葉とともに新約聖書を部長先生から手渡されます。そして、初めて自分の手で聖書を開き読むのです。4月の入学式から待ちに待っていた聖書を手にとって読む姿を見ていると心が熱くなります。「人は神の言葉によって生きる」という御言葉が思い出される瞬間です。この子たちが、いつまでも聖書を人生の盾として歩んで欲しいと願わずにはいられません。

清里高原は神様の造られた作品であふれています。そびえる八ヶ岳、眼下に広がる牧草地。天気が良ければ遠く富士山、南アルプスまで一望できます。森にはカッコウや蝉たちの声、運が良ければ鹿にも出会えます。食事は格別においしく、友だちや先生とおしゃべりを楽しみながら、たっぷり時間をかけていただきます。

そんな3日間を通して、集団で生活する楽しさを味わい、自分は周りの人たちに、そして何より神様に大切にされているのだと、1年生なりに気づいてくれたら「なかよしキャンプ」は大成功です。

62期生オリエンテーション キャンプ

金子 琴江

中等部教諭



入学式を雨に祝福された62期生は、4月14日、雨に送られて2泊3日のオリエンテーションキャンプに出発しました。行く先は伊豆湯ヶ島の天城山荘。晴れればとっても景色のいいところです。雨大好き学年となってしまった我々は、雨と仲良しになり雨に協力してもらったおかげで山荘の庭で集合写真を撮り、2日目浄蓮の滝散策も帰りの淡島マリナパークも予定通りにできました。戦わずに仲良くするのが一番です。

キャンプの目的は新入生が学校生活に慣れることと生徒同士がよく知り合うことです。そのために礼拝や学校生活のいろいろなことについての説明をしたり、クラス対抗ドッジボール大会をしたり、クラスごとのホームルームの時間をたくさんとったりしています。

生徒たちは、初等部時代からの知り合いも初めて知り合った人達も、新しい環境で共に生活をするようになるわけです。お互いにどのくらいの距離をとったらいいか測りながら話しかけたり、遊んだりしていました。

キャンプの生活の中で、生徒たちに分かって欲しいことは、「自分と違う人間を認める」ということに尽きると思います。小学校時代にもクラスがあり、いろいろなクラスメートと交わってきてはいます。ですが、親や周りから守られていますし、また、自分自身が成長することで精一杯の部分があったと思うのです。自分が傷つくことには敏感ではあっても、他の人のことまで考えるのは難しいことです。他人もまた傷つくのだということに思い至るようになるのは、やはり、これから多くの人と交わってはじめてできることだと思います。それが中学時代の成長だと思っています。

62期生、これから私たちの思いにどれだけ応えて大きくなってくれるでしょうかと思いつつ、4月16日午後4時中等部に帰ってきました。

保護者聖書の集い

坂上 三男

高等部宗教主任



高等部では毎月、「保護者聖書の集い」を持っています。1960年6月から始められた集いは、去る6月で410回になりました。

最初、どのような動機で始められたかは分かりませんが、初等部、中等部も行っているところを見ると、どこかの部が最初に始められたのだでしょう。高等部では保護者の方々に、「青山学院教育方針の基である聖書の教えを理解していただくために『保護者聖書の集い』を持っています」と呼びかけています。勿論、保護者の方々に対する伝道の意味も含まれています。

この集いは聖書の学びが中心ですが、讃美歌や宗教曲の話も毎回音楽教師を通してなされます。この話と讃美歌の合唱が保護者の方々に大変喜ばれています。毎回の出席者は50名～70名ぐらいです。

さて聖書の学びですが、高等部では聖書教師二人が交互に行っていますが、時に大村部長に講演をしていただくこともあります。聖書の箇所を決めて、連続して講演を行ったこともありますが、最近はテーマを基に講演を行っています。聖書を読むのが初めてという人が多くいますので、そのことを考慮して話を進めています。具体的に昨年のテーマと聖書の箇所を記します。

4月「青山学院の教育方針と聖書」

(マタイ福音書20章20～28節)

5月「聖書の中の中心思想」

(エレミヤ書31章31～34節)

6月「助けを求めて」

(ルカ福音書5章17～26節)

9月「神の律法」

(申命記7章6～13節)

10月「幸いと災い」

(ヨブ記1章～2章)

12月「キリスト教教育は人格形成をなすうか」

(ローマ書3章21～22節)

1月「新しい時間と古い時間」

(ヨハネ黙示録21章1～7節)

2月「能力を生かし、伸ばす」

(マタイ福音書25章14～30節)

輝くいのちを生きよう

ルカによる福音書 第10章 25節～37節

神田 英輔

日本国際飢餓対策機構
特命大使



人生は出会いによって決まります。1985年にアフリカのエチオピアで体験した出会いも私の人生を大きく変革してくれました。

2年続きの大旱魃(だいかんぱつ)のためにエチオピアではあの一年間で100万人の人々が餓死したと言われています。約一ヶ月間、何も食べていなかった一人のおじさんが、遠くから食料を求めてやってきた女の子たちに、自分が配給でもらった大切な食糧を分けてあげていたのです。自分の家族が真っ先に餓死する可能性のあることを知りながらです。私はこのおじさんの内に、人間としての「すばらしさ、美しさ」・・・自分にとって本当に大切なものを他者と分かち合うときに輝くもの・・・を見せられました。「だから、人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。」と言われているのではないですか。私は人間として当たり前のことをただけです。」と語ったあのエチオピアのおじさんの言葉と、実際の行動とに感動させられました。あのおじさんのような生き方にこそ、輝く生き方の秘訣があるのではないかと教えられています。

ルカによる福音書第10章によると、「永遠のいのち」を受けつくには、神を愛し、隣人を愛することだと書かれています。「永遠のいのち」とは永遠に続くいのちであると共に、生き生きと人間らしく今を輝いて生きるということも意味しているのではないかと私は考えます。

イエスが語られた「善いサマリア人」のたとえを見ながら、追いはぎに襲われ半殺しにされた旅人のそばを通りかかった人たちが選んだ生き方を見ながら、自分はどのような選択をするのかということを考えてみたいと思います。

- (1) 追いはぎは、自分より弱い人から色々なものを奪うことによって自分が豊かになる道を選びました。
- (2) 祭司・レビ人は決して悪人であったものではありません。

せん。困っている人に関わるよりも自分のなすべきことに忠実に生きる道を選びました。

- (3) サマリア人は、犠牲を払って、自分に与えられている大切なものを困っている人と分かち合う道を選びました。

私自身、最初は自分が祭司やレビ人のような生き方をしていると思っていました。しかし、開発途上国の人々と関わりを持つうちに、自分が追いはぎ的な生き方をしているという事実気付かされました。

さらに周りの人々と意味ある人間関係を構築できないでいる自分、また、人を傷つけることによって豊かになろうとしている自分の姿に気付かされるに付け、生きることの意味、生きることの価値や希望を見失っていた私は、追いはぎに襲われ半殺しにされていた旅人の姿とも重なると思われました。

そのような私にとってイエス・キリストとの出会いは、まさに、善いサマリア人に出会ったようなものでした。私のような者のために自分のいのちを犠牲にしてくださったからです。イエスは私の罪を赦すために私の身代わりになって十字架の上で自分のいのちを捨ててくださったのです。イエスが自分のいのちを犠牲にするほどの私・・・「あなたは高価で尊い」という言葉が私に語られていたということが分かったので。この言葉を通して、自分が価値ある存在であるという事実に目が開かれたのです。しかもこのイエスは、天地万物の創造主であり、私をも創造してくださったお方だということです。私に与えられている「指紋」はまさに私がユニークに創造されたことを示す「しるし」だったのです。私にしかできないことがあるということをお教えられたとき、自分の生かされている意味がはっきりと見えてきました。

聖書の中に「奥義」という言葉が使われています。「奥義」とは、このイエスが私たちのうちに住み、生きてくださることです。私自身は愛のない人間です。人を赦せない人間です。しかし、私のうちでイエスが生きてくださるときに、このイエスが、私を通して、人を赦し、人を愛してくださるのです。ここに輝くいのちを生きる秘訣があります。きっと、あのエチオピア・ゴンダールのおじさんもこの奥義に生きておられたのだと思います。

このイエスとの出会いは、私たちひとりひとりに選択を迫ります。青山学院大学で学ぶ皆さんには、追いはぎ、祭司・レビ人のような生き方ではなく、周りの人々のために犠牲を払って仕えていくという「輝くいのち」に至る道を選択なさることを願ってやみません。

シリーズ「地の塩、世の光」は、各界でご活躍のキリスト者の「証し」を連載するコーナーです。今回は、日本国際飢餓対策機構特命大使の神田英輔氏にご寄稿頂きました。

『大型しかけえほん 天地創造』

文・絵：ブライアン・ワイルドスミス 訳：上野和子 大日本絵画 2003年

久 洋子

幼稚園教諭

イギリスの絵本画家、ブライアン・ワイルドスミスについては、ご存知の方も多いと思います。色彩豊かに描かれた絵本は、これまでに 80 冊以上が出版されていますが、彼は敬虔なクリスチャンであり、クリスマスなどキリスト教の絵本も多くあります。

幼稚園の絵本コーナーにもワイルドスミスの絵本が数冊あり、その中の1つがこの『大型しかけえほん 天地創造』です。読んで字のごとく、天地創造の7日間が見開き5ページにわたって描かれています。どのページも、開くと光や花、魚、鳥、動物そして人間が立体的に表れ、またツマミの部分を引きくと花が咲いたり、飛び魚が飛んだり、鳥の卵が割れてヒナがかえったり・・・それはそれは、書ききれないほどの仕掛けが隠れているのです。

今年の5月のことです。年少組の子どもたち3人が、絵本コーナーで何やら真剣に頭を突き合わせて覗いているので、私は「何をしているのだろう？」と近づいてみました。すると、真ん中にこの絵本が置かれていて、3人は飛び出してくる絵に驚きながら「あつ、クジラがいる!」「木の中にくるうがいるよ」など、何度もページを行ったりきたりしながら、各々が知



ている動物や魚を発見しているのです。ツマミに気づくと、その驚きはさらに大きくなり「ほくもやりたい!」と競うように引いたり引っ込めたりして動く絵を見つけてはケラケラと笑って、繰り返していました。

さて、私が傍にいることに気づくと「せんせい、これ、すごいんだよ。ほら、みて!」と、彼らの大発見を自慢気に教えてくれました。この時の彼らにとってこの本は

“天地創造の物語”ではなく、

絵に惹きつけられて開けて

みたら、驚きの仕掛けが

いっぱい詰まった“すごい本”だったわけです。

私は目で、手で、心で絵

本の魅力を存分に味わって

いるときに言葉で説明してしま

うのは勿体無のような気持ちをもちつ

つも「本当、とっても素敵ね。これは全部

神様が創って下さいました、っていうご本

だわ」と答えました。すると彼らは「えっ、

これぜんぶ? これも? これも?」と目をま

るくしながら「ふうん・・・」と、また夢中にな

って絵本の世界に見入っていったのです。

この姿から、入園して間もない3歳の子

どもたちが、純粋に神様の存在を身近に感じ、

受け入れていることが感じられ、嬉しく思

いました。

子どもたちの降園後、私も思わずこの本

を開きました。何度見ても新しい発見があ

り、ワクワクさせられる1冊であると思

います。



青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料

その24 — 岡田哲蔵旧蔵・本多庸一関係資料 —

氣賀 健生

大学名誉教授

青山学院資料センター所蔵のキリスト教貴重文献・史料紹介第24回。今回は昨年当資料センターに収蔵された「岡田哲蔵旧蔵・本多庸一関係資料」の紹介を致します。この資料については2007年秋発行の「青山学報」221号にとりあえず簡単な紹介をしておきましたが、その後整理が進んだので、今回はやや詳細な御報告ができるようになりました。

以下、まずこの資料一覧を御覧下さい。

- (1)『本多庸一伝』岡田哲蔵著 仮綴 456頁
- (2)『本多庸一伝』正誤表 原稿用紙16枚
- (3)『本多庸一先生遺稿』編集過程の一端
大正7年 紙切り張り、岡田哲蔵印
- (4)『本多庸一先生遺稿』初校原稿
- (5)『本多庸一先生遺稿』目次原稿
- (6)スクラップブック 本多庸一からの書簡2通
別所梅之助「詞藻」原稿他
- (7)本多庸一先生伝資料ファイル
在京城本多斎氏より岡田哲蔵宛手紙及葉書
昭和8年2月以降
- (8)本多院長送別会記
- (9)本多氏宿所表より 45年3月31日写
- (10)本多伝 三派合同前後及監督時代 平田平三
- (11)本多先生伝記史料目録
- (12)本多先生日記抜粋 附「護教」より
- (13)本多先生追悼号原稿依頼挨拶状 差出人リスト
- (14)本多家家系図 方眼紙1枚
- (15)本多庸一伝(基督教大辞典)原稿、同複製
- (16)本多先生伝記資料調 大正7年6月5日、6日
- (17)岡田哲蔵宛宣教師からの書簡ファイル
20通余 差出人: R. S. Maclay
J. S. Vail J. O. Spencer B. Chappell
R. P. Alexander ほか
- (18)スクラップブック「逝去の後、人々の見たる
本多先生」切抜き等 桜井成明氏集
- (19)『本多庸一先生遺稿』高木王太郎編
(大正7年11月)
- (20)『本多庸一先生逝去記念』最終校正原稿?
- (21)『我が先生』岡田哲蔵著 大正14年3月14日
- (22)岡田哲蔵宛本多庸一の葉書 軍事郵便

1905年?

- (23)岡田哲蔵宛山鹿旗之進からの葉書2通
- (24)「護教」抜粋ファイル 1912~1913
- (25)本多先生真影及画票 本多先生胸像設置記念
- (26)本多先生年表 家系等 岡田記
- (27)大井上義近の書状 恩師本多先生について
- (28)本多先生について(喜多川用箋?)
- (29)本多先生墓所完成式次第 昭和7年3月20日
- (30)「牧人」75号 故本多庸一先生記念号
- (31)海老名弾正葬儀執行順序 昭和12年5月25日
- (32)「護教」ほか新聞ファイル
- (33)岡田哲蔵宛葉書4点 絵葉書2点
- (34)岡田哲蔵宛手紙2通

ほかに約20点の細かい資料あり

以上がこの度の岡田哲蔵旧蔵・本多庸一関係資料の全リストです。このリストは当資料センターの傳農和子さんが作製したものです。傳農さんの記録は精密を極めていて、使用した用紙の種類(原稿用紙、和紙、便箋等)から、毛筆、ペン書き、ガリ版刷り、本印刷の別も詳しく記してありますが、ここではそれらは概ね省略しました。関心のおありの方は相模原キャンパスの資料室で現物を御覧下さい。なお、リストのナンバーは傳農さんの整理によっています。

それでは以上の資料のうち、数点について以下に若干の解説を試みることに致しましょう。

まず(1)『本多庸一伝』。岡田哲蔵は本多庸一の愛弟子で、青山学院教授をつとめ、この伝記の著者であります。この伝記は本多庸一伝としては最も早く書かれ、岡田の恩師に対する畢生の敬愛を傾注して編纂された、最も信頼のおける伝記であります。今回収蔵されたものは、その原本の仮綴で、日独書院版、昭和10年1月7日発行、



(1)岡田哲蔵著『本多庸一傳』
校正原稿仮綴

456頁のものです。

次に(7)「本多庸一先生伝資料ファイル 在京城本多斎氏より岡田哲蔵宛手紙・葉書昭和8年2月以降」という資料ですが、岡田哲蔵がこの伝記を書くに当たっての編纂過程がわかるもので、本多庸一の次弟本多斎氏(当時京城在住)から多くの情報を頂いたことを偲ばせる資料が含まれています。

次に(6)スクラップブックの中の別所梅之助の「詞藻」の原稿は手書きで、別所梅之助らしい名文です。一部分を紹介しましょう。

「本多先生を送るとや。われはさる心地せざるなり。先生は依然として我らのうちにあり。…先生の構はおほむね正眼なり。われらは先生の大上段に振り冠られたるを見んと欲す。しかも先生はこれを敢てせず…先生は依然として我らのうちにあり。さなり、これ先生を送る辞にあらざるなり。」

そして次に(8)青山学院生徒記とある「本多院長送別会記」のごく一部分を抜粋しましょう。

「緑が岡の生命の泉、ふと絶えぬ。……本多院長は青山学院を去りぬ。われらの冕(かんむり)はあだし人の頭に遷されぬ。われらの嘆きよ。その涙の凝りて今宵の送別会となりつ。時しも六月十六日の夜、六時半と云ふにさしもの大講堂も人もてうまりぬ。」

さて(12)「本多先生日記抜粋」には、明治30年代後半の本多の足跡が岡田哲蔵の手によってまとめられていますが、その一部を見ると

36. 1. 10 井深(樞之助)と文相訪問

36. 1. 19 文部省

37. 4. 8 井上、桂、寺内に会う

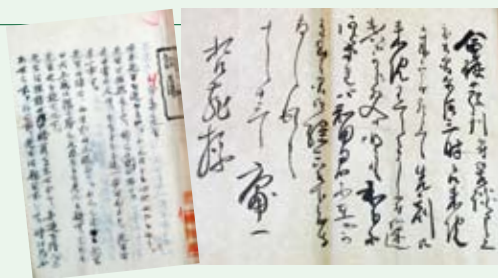
37. 7. 22 文部省へ井深と訪問

37. 朝鮮行、中田重治と

37. 11. 10 桂大臣訪問

38. 2. 27 桂、小村を訪ふ

とあって、頻繁に政治家と交渉していたことが覗われます。1899年8月の文部省訓令12号によって私立学校における宗教育苗と儀式が禁止された時には、本多は明治学院長 井深樞之助と共に文部省はじめ官憲と根気よく交渉しますが、この時期にもそれが続いていたことが察せられます。更に岡田哲蔵は本多の外国旅行を次のよ



左／(6)別所梅之助の「詞藻」原稿

右／(6)本多庸一から岡田哲蔵に宛てた手紙

うにまとめています。

東洋行

明治28年訪韓(第一回)

明治37年朝鮮(第二回) 5月15日から75日間

明治40年6月18日～7月8日(第三回)

明治41年10月(第四回)

明治43年10月(第五回)

欧米行

第一米国行 明治21年夏～23年夏

第二米国行 明治29年美以教会総会

(クリーヴランド)

第一欧洲行 明治33年ヴェルサイユ

青年会同盟大会

第二欧洲行 明治38年3月4日発11月5日帰

第三米国行 明治38年3月4日発11月5日帰

第四米国行 明治39年7月12日発10月30日帰

第三欧洲行及第五米国行 明治43年4月6日発

10月14日帰

これによっても本多が日本を代表して諸外国にしばしば出向いていたことがわかります。この岡田哲蔵のまとめた本多庸一の日記抄は、1901年本多が伝道旅行に東奔西走中に青山の自宅が火事で一切を焼失したので、大変貴重なものです。その岡田哲蔵宛の本多の軍便郵便の葉書(22)は、本多が日清、日露戦争に際して明治人として奮闘した状況の一端をうかがわせるもので、これも貴重な史料です。

その他明治キリスト教界に著名な人物関係の資料が含まれていて、本多庸一のみならず明治キリスト教史研究に資するところが大きいと期待されます。また本多庸一葬儀の次第が図解されていますが、(8)「棺側各位・本多邸より式場まで」の図にはグリーン、バラ、デビソン、押川方義、植村正久、江原素六等キリスト教界の代表者達が棺につき添っています。

日本キリスト教会 鶴見教会

芹田敏夫

経済学部教授

鶴見教会は、日本キリスト教会に属し、教会が建設されて今年で74年の歴史を持つ教会です。横浜市鶴見区というと京浜工業地帯というイメージがありますが、教会は山側に位置して駅から歩いて5、6分のところにあります。商店街を抜けると、静かな住宅地の一角にある、白い教会堂の屋根の上の大きな十字架が目印です。

会員の数は約300名です。鶴見教会は、日本キリスト教会で5番目に会員が多い教会です。日曜日には、中学生以下の日曜学校に約30名、主日礼拝には約120名の出席があります。年に数回行われる家族全員礼拝では、0歳の幼児から100歳の婦人まで一緒にの礼拝を守っています。

鶴見教会の歴史について簡単に述べますと、1926年に初代牧師の堀内友四郎先生が鶴見に定住して伝道が始まり、現在地に新会堂が建てられました。1934年9月に独立の教会として建設されました。戦後は、1951年5月に、日本基督教団から離脱し、日本キリスト教会新生の第一歩が踏み出されましたが、当教会もこれに加わり、教会形成をしてきました。1980年4月に野木虔一牧師が来任され、現在に至っています。現在の教会堂は、1987年2月に新築されました。会堂で時々演奏会を行いますが、演奏家の方々から音響がとてもよいとの評価をいただいています。

野木虔一牧師は、鶴見教会の牧会と同時に、日本キリスト教会の神学校で「旧約学」を教授しています。また、本学の大学や短大の大学礼拝の説教者としてしばしば奉仕をされ、他校の修養会の講師を務めるなど、キリスト

教主義学校の良き協力者でもあります。野木牧師の豊かな経験と深い聖書の読解に基づいた説教は、私たち聞くものの心を動かし、聖書のことばに対す

る新たな思いをを起こさせてくださいます。また、牧師夫人の欽子先生は、私の属する経済学部で英語を長い間教えてくださいました。

次に、鶴見教会の特徴についてご紹介しましょう。まず、教会の雰囲気は誰にもオープンで、新しい方が教会になじみやすいことがあげられます。そのため、私も含め、横浜近辺に転居された方が初めて鶴見教会に来て、その後会員となる方が多くいます。外国人の方も多く訪れています。また、日曜学校には、多くのキリスト教主義学校の生徒が出席しています。

カトリック鶴見教会と教派を超えた交わりや祈祷会を定期的に持っているのも珍しいかもしれません。当初は壮年会(ある程度以上の年齢の男性のグループ)を中心に始まりましたが、最近では、教会全体に交わりが広がっています。

最後になりますが、数年前から、鶴見近辺にお住まいの方がクリスマス教会で過ごせるようにと、「クリスマスイブ賛美礼拝」を持っています。地元メディアでも紹介されたこともあり、多くの近隣の方々とクリスマスを共に祝う恵みの時が与えられています。



日本キリスト教会 鶴見教会

〒230-0062 横浜市鶴見区豊岡町31-9

TEL 045-582-8694

<http://homepage3.nifty.com/tsurumichurch/>

幼稚園より

2学期は様々な行事を通して、神様が与えて下さる恵みに共に感謝をしながら過ごします。

軽井沢キャンプ

9月3日(水)～5日(金)

年長組の子ども達40名が、友達や保育者と共に3日間過ごします。神様がお造りになった豊かな自然の中で礼拝を守ります。

敬者の会

9月19日(金)

子ども達のおじい様おばあ様をお招きして、共に礼拝を守り、幼稚園で楽しい一時を過ごします。

秋の遠足

10月24日(金)

芋堀りをしたり、どんぐりや赤や黄色に色づいた葉を拾い、神様が私達に下さる秋の恵みを身体いっぱいに感じます。

収穫感謝祭

11月21日(金)

幼稚園の庭で収穫した柿・銀杏・みかん、遠足で掘った芋、家から持ち寄った果物を飾り、皆で神様に感謝の礼拝を守ります。

アドヴェント礼拝

11月28日(金)、12月5日(金)、12日(金)

イエスさまのお誕生を喜び祝うクリスマスに向けて子どもと保育者・保護者の方も共に3回の礼拝を守ります。

(教諭 久保小枝子)

初等部より

初等部の2学期は、運動会、秋の宿泊行事、入学試験、クリスマスと多くのプログラムがあります。キリスト教活動も以下のようなプログラムがあ

ります。

教職員退修会

8月28日(木)～29日(金)

吉祥寺教会牧師の吉岡康子先生を講師に「子どもに伝えるキリスト教信仰」というテーマで行いました。

聖書週間特別礼拝

10月14日(火)

聖書の御言葉の大切さについて学ぶ礼拝を守ります。

となり人を覚える礼拝

10月29日(水)

初等部では毎月の献金をチャイルド・ファンド・ジャパンを通して6名のフィリピンのお友だちのために、また、日本聾話学校のために献げています。その具体的な働きを覚えて礼拝を守ります。

創立記念礼拝

11月14日(金)

初等部にとっては71年目の新しい一歩を踏み出す礼拝です。

感謝祭礼拝

11月18日(火)

Thanksgiving Dayの礼拝。礼拝堂にたくさんのくだものを持ち寄り、感謝の礼拝を捧げ、その後、恵みの分かち合いとしてくだものを近隣に持っていきます。

(宗教主任 小澤淳一)

中等部より

中等部研修会

8月28日(木)～29日(金)

テーマ:「発達障害・特別支援教育について」

講師:古荘純一先生

(青山学院大学文学部教育学科教授)

宗教改革

「10月31日は何の日?」と聞いたならば、すぐさま「ハロウィンの日!」という答えが返ってきそうな今日この頃です。しかし10月31日は、「宗教改革記念日」であることを忘れてはなりません。1517年のこの日、ドイツのヴィッテンベルク大学で神学教授を務めるマルティン・ルターは、「95箇条の提題」を発表しました。これは簡単に言うならば、免償符の売買によって、金銭で赦しを買うような誤解が当時広まっていたことに対する非難であり、免償符の無効性について公開討論することが目的でした。ルターは当初、ローマ・カトリック教会の権威に楯突こう等という考えを、全く持っていなかったと言われていました。しかし僅か一本のマッチの火が、森全体を焼き尽くすほどの大きな山火事へと発展するように、ルターの問題提起はヨーロッパ中に大きな波紋を投げることになりました。その陰には、当時のローマ・カトリック教会の腐敗に対する批判や不満が存在したと共に、既に普及していた

活版印刷術によって「95箇条の提題」が大量に印刷され、流布したことも要因であると見なされています。

ルターはその後、教皇によって破門処分とされます。しかし有力な選帝侯たちやドイツの貴族たちの間で起こっていた権力闘争が、ルターの宗教改革運動の追い風となります。そうした中で、ルターは聖書を母国語のドイツ語に翻訳したり、会衆讃美を定着させる等、いくつもの大きな貢献をします。これにより、人々は聖書を直接手にとって読むことができ、自分たちの口で声高らかに神を讃美することもできるようになるのです。

これに対し、ローマ・カトリック教会の側でも、教会刷新運動が起こります。これを「対抗改革」と呼び、特に海外伝道が推進されます。中でもイエズス会の活動は目覚しく、イエズス会士のひとりであるフランシスコ・ザビエルは、日本にまで来て伝道しました。このように、ヨーロッパで起こった宗教改革と、後に起こる日本への伝道が、深い所でつながっているのは興味深いことです。
(高砂)

高中部合同研修会

9月1日(月)

テーマ:「真の豊かさ」

講師:金 健先生(在日大韓基督川崎教会牧師)

CF(クリスチャン・フェローシップ)活動-校内清掃-

9月2日(火)

校内をきれいにし新学期を気持ちよく迎えます。

創立記念礼拝

11月7日(金)

説教:北川正弥先生(日本基督教団駒澤教会牧師)

クリスマス・ページェント

12月18日(木)

生徒、教職員、保護者がひとつになってイエス様の誕生をお祝いします。

(宗教主任 西田恵一郎)

高等部 より

グリーンキャンプ

去る7月23日～25日にアジア学院にてグリーンキャンプを行いました。アジア学院(栃木県西那須野)は農村指導者養成専門学校で、アジア各国からの留学生が30人程学んでいます。ここで私たちも農業、養鶏、養豚、鶏のと畜、調理実習等、食べ物にかかわる作業を行い、大変良い経験を致しました。同時に、私達の聖書の学び、また親睦を行うことが出来ました。

参加者は教師5名、OB1名、生徒14名。

伝道週間礼拝

10月27日～31日は秋の伝道週間です。講師は東京バプテスト教会牧師・Chris. McCottry 牧師。東京バプテスト教会のミュージックバンドの応援を得て、感銘深い伝道礼拝になることと思います。

創立記念礼拝

今年度の高等部での創立記念礼拝は11月14日(金)に行います。この日は毎年、講師の先生を招いて礼拝を持っておりますが、今年は卒業生で牧師の北川正弥先生(日本基督教団駒澤教会)です。

(宗教主任 坂上三男)

女子短大 より

ランチタイムコンサート

10月16日(木) 12:30～13:20

女子短期大学礼拝堂

演奏:ラジッド・クアルテット

青山祭開会礼拝

11月1日(土) 9:30～ 女子短期大学礼拝堂

青山祭チャペルコンサート

11月1日(土) 13:00～15:00(予定)

女子短期大学礼拝堂

演奏:短大聖歌隊、短大ハンドベル・クワイア、ゴスペル・グループ、大学第二部聖歌隊

青山祭 天使の喫茶

11月1日(土)、2日(日)

チャリティー喫茶および展示

創立記念礼拝

11月14日(金) 12:30～13:00

説教:嶋田順好先生(学院宗教部長)

いずれも、どなたでもご参加いただけます。

(宣教師 シェロ マイク)

大学 より

ランチタイム・コンサート

相模原:10月27日(月)堀井美和子氏

青 山:10月17日(金)筒井淳子氏

昼休みのひと時、大学オルガニストによるパイプオルガンの演奏に耳を

傾けてみませんか。どなたでも入場できます。

チャペル・ウィーク

10月20日(月)～25日(土)

各界で活躍しているクリスチャンの方に礼拝でお話をして頂きます。

第二部オータム・カレッジ

11月15日(土)～16日(日)こどもの城

講師 吉岡康子先生(吉祥寺教会牧師)

(宗教センター事務局 平野修一)

本部 より

Art クリスマス Aoyama

11月26日(水)～12月19日(金)

短大ギャラリー他

クリスマス为主题にした幼稚園

児から大学生までの作品を展示しま

す。スタンプラリーでプレゼントも貰えます。奮ってご参加下さい。

クリスマス・ツリー点火祭

11月28日(金) 相模原16:30、青山17:20

全学院の礼拝として行います。どうぞご出席下さい。

(宗教センター事務局 平野修一)

編集後記

今号のニュースを編集集中の6月30日をもって、深町正信第12代院長が退任なさることになりました。長年学院を守り導いてくださっていたことにあらためて感謝いたします。深町院長のご講演をお聴きして、また今号のニュースの幼稚園から大学までの各部の宗教行事や様々な紹介を拝読して、この学院が、1874年以来一貫してキリスト教信仰に基づいて教育を行なっていることをあらためて確認いたしました。私たちも、若い人たちを育てて、キリスト教信仰に基づく教育を引き継いでいけるように努力したいと思います。(茂 牧人)

Wesley Hall News 第97号

発行 青山学院宗教センター 宗教部長 嶋田順好
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537 (ダイヤルイン)
URL:<http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html>
E-mail:agcac@jm.aoyama.ac.jp
編集 ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷 万全社